

かくれんぼしている虫を探そう

太田慶子（千葉市）

日 時：2011年2月6日 10:30～12:00 天候：晴

参加者：17人（大人10人 子供7名）

担当指導員：太田慶子、山岸文子

立春を過ぎて暖かさの感じられる日。子ども連れの家族が大半でした。

まず、子ども用の「虫の冬ごし」という写真本を見せながらお話をしました。その後、虫たちは広場にある大きな杉の木のどの方向（東西南北）で冬越しをしているか、質問しました。大半が「陽の当る南」という答えでしたが、そこには虫が見つかりません。杉の木の北側は雑木林で冷たい風が来ないようにになっており、樹皮の間にヤニサシガメが何匹かいました。

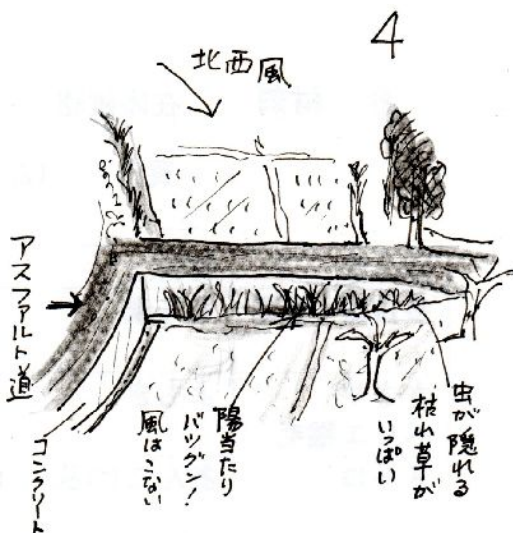
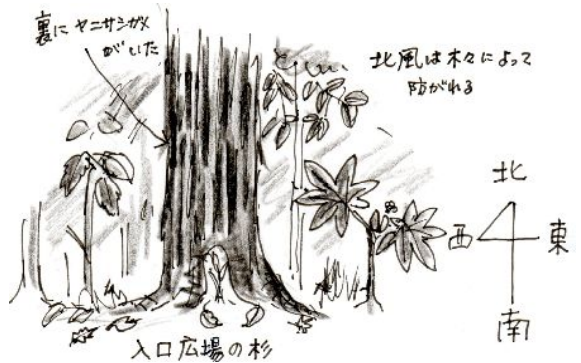
人間でも一日のうちに寒暖の差があると体調を整えるのは大変なように、変温動物である虫は温度変化の小さいところの方が過ごしやすく、意外と南向きの木肌にはいないのです。

カマキリの卵のう探しをしました。大人より子ども達の方が早く見つけます。特に今回は昆虫少年がいて、オオカマキリとハラビロカマキリの卵のうの違いもわかります。

暗い杉林に入ると、子どもたちは落ち葉が積もっている朽木近くで、自分から枯れ葉をめくったりして、虫を探そうとします。クモ、トビズムカデ、葉の布団に挟まれた小さなミミズ、ケヤキの根元にはエサキモンキツノカメムシやツヅミノムシ（マダラマルハヒロズコガの糞）などが見つかりました。杉の木の下の方にトホシテントウの蛹を昆虫少年が見つけてくれました。葉っぱの裏にジョロウグモとクサグモの卵のうがかくれんぼしているのは教えました。

ニシキオニグモの成体がまだ生きて木の凹みにいました。寒くても今冬は毎日晴れて日差しがあるので生き延びられるのか、本当に不思議です。その近く木の凹みにはヨコヅナサシガメの幼虫が集まって冬越ししています。足元にはタチツボスミレがたくさん咲いていました。

最後に大急ぎで子ども達が喜びそうな“取って置き場所”へと急ぎました。そこは道路の南下側にあたり、冷たい北風に当らず、陽が当たるととても暖かいし、適度に草が生えているので朝晩も冷え込みが少なそうなところでした。（左図）



子ども達に降りてもらって、草をかき分けてもらおうと、大小のクモ、緑色や褐色のクビキリギス（成虫越冬）、ナナホシテントウ（冬眠しない）、ヒシバツタ、アカヒメヘリカメムシ、クワゴマダラヒトリの幼虫、オオカマキリやナガコガネグモの卵のう・・・などが次から次へと見つかり、大喜びでした。

参加者で初めて来たという若い男性は、「町の暮らしでは見られない生き物がたくさんいるこんな場所が他にもあればいい。生態系のことを考えても大事だ。」若いお母さんは「ふだん虫なんて見ないけれど、きれいな模様の虫もいるのを知りました」「大人より、子どもの方が上手に見つけますね」小さな子どもは「虫を探すのが楽しかった」と。そして昆虫少年のお気に入りには「ニシキオニグモ」でした。